

ハンフォード市訪問団派遣事業に参加して

佐藤 睦

ありがとうございました。

まず、このような貴重な機会を下さった町の皆様、ご理解下さった職場の方々、そして時間を一緒に訪問団の皆様、ハンフォード市の皆さんに心より感謝申し上げます。

出発前、期限切れだったパスポートを申請し直し、海外旅行グッズと先方へ沢山のお土産、そして期待がドンドンと詰込まれ、スーツケースは埋まっていきました。

長時間のフライトも映画三昧で快適に。降り立ったサンフランシスコ空港では抱いていた緊張とは裏腹に無表情な入国審査員にさらっとアメリカへの門をくぐらせてもらい、いざ第一歩。抜けるようなカリフォルニアの青空、乗り込んだバスも、猛スピードで追い抜いていくトラックも、車窓を流れる景色も、五感全てで異空間にいることを実感させてくれました。

さらにこのカテゴリーでは回数を重ねるごとに衝撃と緊張を蓄積させてゆくのですが、本当に大きかった、ショックだった、食文化。何をチョイスしてもまるでその一皿に果敢に挑むかのような姿勢で臨み、平静を持ってして食事をするとはなかったと断言します。甘さ、辛さ、こってり度合い、食でもアメリカを実感したのです。

観光地ではサンフランシスコで一番印象的だった孤島の刑務所、アルカトラスアイランド。真っ青な空の下、島の向こうから聞こえる華やかな喧騒。鉄格子ごしの囚人は狭くて小さな部屋で毎日何を思って過ごしたのでしょうか・・・。



サンフランシスコから風景は徐々に変わっていきます。ハンフォード入りの際には私達の前に立つ信号が一齐に青に変わり、大感激。多くの農場を見学させていただきましたが雨が少なく湿度の低い温暖な気候で育まれる特産品、木の実(クルミやピスタチオ)、ブドウ(ワイン、レーズン用)に綿花の畑や酪農地はあまりにも広大すぎて、その管理やシステムには驚きとため息の連続でした。機械農業だけかと思いきやレーズンの畑には一つ一つ房を切り取り、大切に紙の上におかれたブドウが太陽の光を浴びて新たな息吹を吹き込まれているようで、まさに『Sun made』。人と大地と太陽の力に感服しました。

また、市役所では市長さんとも対面する機会をいただき、町のことについてお話を聞くことができました。メキシコと隣り合っているカリフォルニアにはメキシコからの移民が大変多く、現在も増え続けているそうです。またハンフォードでも住みやすいという理由からメキシコにかかわらず、アメリカからも移住してくる人が多いそうです。住みやすさはもちろん風土や気候、施設の充実などもあるかと思いますが、やはりそこに暮らす人々との繋がりが良いものであるからこそではないでしょうか。これからもますます増えていく人口にも市ではしっかりとした構想を立て、先を見ているようでした。



ホストファミリーと過ごした時間もとてもかけがえのないものでした。立派な家やハイグレードな車に目を奪われっぱなしでしたが、生活に不可欠なものには惜しみなく投資をすということ。週末個人宅前で開催されるバザーに多くの人が足を運び値段交渉、交渉以外にもおしゃべりで盛り上がりお買い得品を手にとり満足げに去っていく姿に必要なものを必要な人が所有し、古き良きを大切にしたい気持ちとコミュニケーションの大切さを感じました。『暮らし』をととても大切にしている感じがします。

ホストファミリーのダディの趣味で、思いがけず出席させてもらった社交ダンスパーティーは何もかもが初めて。ドレスアップしてエスコートされ車に乗り込み、まるでお姫様気分……。生で聞く『shall we dance?』に感激し、パートナーの足を踏み込んで踊りを楽しみました(お相手には申し訳なかったですが……)。



時間の経過はあっという間でした。ハンフォード滞在の最終日にホストファミリーと訪れたのはヨセミテ国立公園。肺一杯に吸いこむ空気の美味しいこと！松の木の香り溢れる遊歩道の先には膨大なエネルギーとともに流れ落ちる滝、どっしりとたたずむ一枚岩の力強さ。展望台から臨む風景で湧き上がった感動はとも言葉で表すことができません。静と動が混在する自然のパワーに細胞が再生するようでした。

最後の夜は遅い帰宅ながらも私が材料を持参した『TENPURA UDON DINNER』を振る舞いました。天ぷらの具材には日本では見かけない食材も加わりました。おいしいおいしいと何度もおかわりして食べてくれ、今度は自分で作るとやる気満々のママ、嬉しかったです。沢山のお土産も持たせてくれました。これはお母さんに、これはおばあちゃんに、なくなったお父さんに。どんなにひねり込んでも押し込んでもスーツケースに座り込んでも収まらず、涙ながらにいつかかを辞退してきました。もっともっと会話ができるようになってきたらダンスも・・・)上達して、また来ます。

最後の訪問地 L.A でも打ち解けた仲間と楽しい時間を沢山共有し、空港へ。途中道端で油田が掘られている光景に遭遇しました。日本にはない、現在は必要不可欠の資源。今回の東日本大震災でも思い知りましたが当たり前である事がどんなに特別でありがたいものであるか、忘れずに毎日を過ごさなくては、と思いました。

L.A 空港で、はちきれんばかりのスーツケースが無事にベルトコンベアを流れていった時には安堵し、そして日本へ向けて飛行機は飛び立ちました。

かけがえのない10日間を振り返ってみると、印象的だったのが出会う人たちの笑顔と喜びの仕草です。些細な事にも一緒に大喜び、少しの変化にも気づいて賛美をくれる、写真を撮る時には満面の笑顔。ガイドさんが教えてくれました。と小さな頃から鏡の前に立つ度に笑顔の練習をするのだそうです。自分も幸せになり、相手も幸せにする方法を、子供時代で身に着けているのだろうかと思います。

そして英語力はそんなに長けていない私ですが、現地で交わす会話は不思議と意思疎通ができました。相手としっかり向き合い、言わんとした事を理解したいという思いがあったからなのかもしれません。言葉がわかる分、私は日本でその事をするのが怠慢だったのでは、と反省します。

今後とも一人でも多くの方が海を渡り、国境も文化も越えてせたなへアツイ想いを馳せている方々と交流を深めて欲しいと願います。本当にありがとうございました。